

あじさいネットの 「遠隔診断」を紹介

医療関係者に説明会

県内を網羅している医療ネットワークシステム「あじさいネット」の機能について医療関係者向けに説明する研究会が11日、長崎市内であり、離島を対象にし

た県の遠隔画像診断を本年度からあじさいネット上で展開していることを紹介した。

あじさいネットはNPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会（小尾重厚会長）が運営。各病院がインターネットを通じてカルテを共有し、診療に生かせるのが主な機能。現在、情報提供する拠点病院が17、情報を閲覧で



遠隔画像診断について紹介したあじさいネットの研究会
＝長崎市茂里町、県医師会館

きる病院が1803と、全国最大級の規模となっている。

研究会では、インターネットを通じて離島の救急患者を県本土の専門性の高い救急医が診断する遠隔画像診断について、同協議会の松本武浩理事が説明。昨年度までは県が独自システム上で行ってきたが、あじさいネットの活用で県内を網羅する基盤ができ「今後は対象を離島以外に広げることが可能」と述べた。

このほか、長崎大が展開する放射線科の遠隔画像診断、テレビ会議、講演中継など本年度から追加された新機能についても紹介。松本理事は「あじさいネットが進化することで、県全体の医療の質を上げることができる」と語った。

研究会は同協議会が毎年実施。今回は約200人が参加した。
（中島宙）